

資源循環領域における論点について（案）

「循環型社会形成推進基本計画」(平成25年5月閣議決定)では、リサイクルに比べ取組が遅れているリデュース・リユースの取組強化、有用金属の回収、安心・安全の取組強化(有害物質の適正な管理・処理、災害廃棄物対策指針の策定)、3R国際協力の推進等を新たな政策の柱としており、これを踏まえた取組が必要である。

2050年頃を想定した長期的な社会像について

- 主に「低炭素・資源循環・自然共生政策の統合的アプローチによる社会の構築」(平成26年7月中環審意見具申)における「ビジョン」を踏襲することとする。本領域に関連する「長期ビジョン」の記載は主に以下のものである。
- ・地域ごとの自然環境や人、生活、事業活動の特色に応じて、物質やエネルギーの循環が図られる。
 - ・環境中の様々な物質や元素の健全な循環が保たれることに加え、自然環境や生態系の保全の実現にも資する、より大きな視点からの健全性が確保されている。
 - ・途上国を中心に我が国の技術力が幅広く展開されることで、地球環境保全に貢献するだけでなく、環境分野の海外直接投資が活発化し、配当金等が国内に還流している。

2025～2030年頃を想定した中期的な社会像について

循環型社会形成推進基本計画における「循環型社会形成に向けた取組の中長期的な方向性」と整合させるべきである。

資源生産性、循環利用率が向上し、廃棄物としての処理量が現在よりも減少している。

有用金属資源の回収・リサイクルの技術開発とシステム確立がなされ、社会に実装されつつある。

バイオマスなどの廃棄物からのエネルギー回収に向けた技術開発とシステム確立がなされる。

環境負荷の少ない適正処理・処分に向けた技術開発とシステム確立がなされ、社会に実装されつつある。

アジア等での資源循環の実現に向けて我が国の技術・システムが利用されつつある。

重点課題案 「3Rを推進する技術・システムの構築」

ポイント：3Rの推進による資源循環性向上と廃棄物量の減少（特に消費者行動を含む2Rを推進する社会システム）、有用金属等の回収・リサイクル技術と社会システム、アジア等の地域特性を踏まえた技術・システム など

重点課題案 「廃棄物の適正処理と処理施設の長寿命化・機能向上に資する研究・技術開発」

ポイント：3R後の残余廃棄物に関する環境負荷の少ない適正処理、アスベスト・水銀等の有害廃棄物の適正管理・処理、廃棄物処理施設の長寿命化、廃棄物処理システムの社会的受容性向上 など

重点課題案 「バイオマス等の廃棄物からのエネルギー回収を推進する技術・システムの構築」

ポイント：化石燃料資源の代替を見据えた廃棄物・バイオマスからのエネルギー回収技術、地域特性に応じたシステム構築、地域熱供給など回収エネルギー利用拡大に向けた社会システム整備 など